

平成17年度 試験研究(事後)評価整理表

整理表3

試験研究機関名 内水面水産試験場

所管グループ 研究開発G

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	実施期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊で魅力のある水産業の振興	資源増殖技術の高度化研究	種苗特性把握試験	種苗特性の因子として、アユ冷水病に対する耐性を評価するため、濁りによる攻撃試験で評価する。さらに、天然アユと人工アユの判別手法を開発する。	実験池内で人為的な濁りによる攻撃試験で冷水病の発病及び斃死状況を調べる。天然アユと人工アユについて、外部形態による判別分析を行なう。	13	17	C	研究課題の一つであるアユの判別手法を開発した。	アユの判別手法の開発という成果を得たと考えられる。
2	豊で魅力のある水産業の振興	資源増殖技術の高度化研究	溪流魚資源増殖手法開発研究	キャッチアンドリリース(C&R)は、キャッチするまでのプロセスを楽しむ遊漁方法で、放流後の生残率等を調査することにより、C&Rの資源量維持に対する有効性を検討する。	渓流域の主な釣り対象種であるイワナ、ヤマメについて、飼育池で釣獲試験を行い、生残率、漁獲率、漁獲回数等について調査する。さらに、実際の漁場(C&R区間)の実態調査を行う。	5	17	A	C&Rが溪流魚の資源管理に有効な手法であることが実証された。	明確な研究手法で十分な成果を得たと考える。